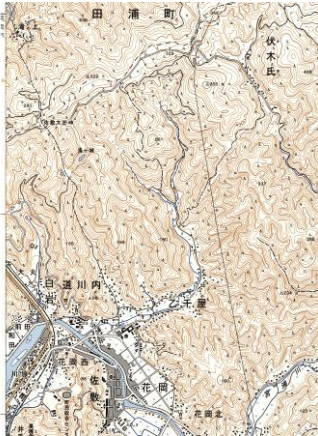


薩摩街道を歩こう 佐敷太郎峠 270m



野坂屋旅館前の標識柱



道川内地区登り口にて



七本松峠跡



H22.8.8(日) 快晴会員 8,案内 2,計 10 名参加
1 号車-K、KH、SH、Ko、N
2 号車-M、MH、H
3 薩摩街道ななうら案内人の会 M、Mi
6:00 天草市役所 5 名出発,6:40 松島 VC 3 名合
流,7:30 不知火支所,8:40 佐敷でこぼん案内人 2
名合流,10:00 でこぼん出発,11:10 佐敷太郎
峠,11:52 滝の上集落,12:10 野添眼鏡橋(弁
当),13:20 海浦駅,13:55 佐敷駅,14:30 でこぼん
出,15:40 不知火温泉(入浴料 500 円),18:30 天草
市役所解散,参加費 260km1,500 円(資料代他,
傷害保険なし,高速代,写真代,車代 3,000 円)

本渡から 5 名が車 1 台で出発する。松島 VC
で 3 名と合流し、不知火支所に寄る。広域農
道を通り八代南 IC から無料化された南九州
自動車道を通る。佐敷 IC を降りたところに
「でこぼん」があり、薩摩街道ななうら案内
人の会代表 M さん、Mi さんと合流する。

佐敷川と佐敷城址を左に見ながら寺院や薩
摩屋などの古い街並みを通り道川内地区へ。
ここから佐敷太郎越えの山道が始まる。そこ
へ芦北町関係の方が通りかかり「採石場は許
可が無いと通れませんよ」と言われた。私は
「里道(りどう)は国の財産だから誰でも支障
なく通れるはず」と言い返す。そこへ M さん
が「振興局を通じて業者の方に了解を得てい
ます」と助け舟を頂く。

広葉樹林のなかの急な山道から始まり路傍
にヤブランの紫色の花が咲き、連日の猛暑に
もかわかわらず涼しい風が吹き抜ける。やがて
七本松峠跡と呼ばれる台地へ出て M さんの
説明を聞く。

ゆるい登り坂に変わり車道へ出た。ここから
先は採石場の許可がないと通行出来ないとい
うことだ。車道を通り谷の奥の方へ進むと
再び歴史の道が始まる。細い谷川が流れ石垣
が残る。キンミズヒキの黄色い花が咲いてい
た。

主要道の証し一等水準点



佐敷太郎峠



石畳を下る



野添眼鏡橋



Mさんが「これは水準点です」と教えて下さった。よく見ると一等水準点らしい。東京湾平均海面を基本水準面とする日本水準原点の高さを明治初年代から国道の約 2km ごとに一等水準点を設けた。誤差は 2km につき 3mm である。これが土地や山の高さの基準となるもので大切に保護しなければならない。つまり明治初年代にはこの道が唯一の道だったことを意味している。しかし今では地図に記号が無いから使われていないようだ。

道はみかん畑のなかを通り、みかん小屋の横で休憩する。この近くにかつて茶屋があったらしい。旧国道へ通じる車道を横断して、この先は藪になっているので標識に従い迂回する。そして佐敷太郎峠に到着した。見晴らしがないのは残念だが記念写真を撮る。田浦側にも農作業用の舗装された車道があり道をやや登り次に下り坂になる。八代海と天草の島が美しい景観をつくる。

さらに車道を下ると耕作放棄地があり草やかずらが道に張り出している。谷状の斜面を下るとき杉林のなかに石畳が現れた。かつては薩摩街道の大部分は石畳で覆われていたと想像するが現存するのは少ない。実はここも撮りたい写真の一つだった。

滝の上集落に近くなり家の屋根瓦が見えてきた。車道と田んぼに囲まれた静かな農山村の姿は風情がある。小さな滝を見て広域農道の車道に出て旧国道と合流する。そこに数人の方が人待ち顔なので何うと小学生の「薩摩街道を歩こう隊」が通るそうである。

民家の許しを頂いて庭を通り野添眼鏡橋を見にゆく。最近改修されたがアーチの姿は残されている。眼鏡橋とは長崎市中島川に架かる日本初の二連アーチ石橋のことである。弁当を食べるとき小学生と随行者の一団が通る。

海浦駅から佐敷駅まで電車に乗り、でこぼんで案内人の方と別れて帰途に着く。日奈久温泉ばんぺい湯は休館のため不知火温泉に入り本渡へ帰った。(天草山岳会 N)